

## 夢の途中 ～人生、よろこばせごっこ～

昭和57年4月、中学校教員として初めて教壇に立った。幼い頃から父の姿を見て育ったため、同じ道を選んだが、想像していたのとは違う世界がそこにあった。学級は群れと化し、授業も成立せず、「これが懂れていた先生なのか」と肩を落とす。校長先生からは「生徒と一緒に校長室前に正座しなさい」と指導され、保護者からも「先生、とんでもないことしてくれな」と怒鳴られ、心穏やかな日は一日たりともなかった。

それから38年。昭和、平成、令和と3つの時代を経た教員生活の最後は、穏やかな気持ちで迎えることができた。“教員”という名のレースの最後は、コロナとの戦いもあったが、多くの人に支えられながら、笑顔でゴールテープを切ることができた。3月31日に届くように、先生方に宛てた感謝の葉書には、「後悔などあろうはずがありません」と綴った。

退職まで残り1か月に迫った令和2年2月27日夕方、「全国の小中学校は一斉に臨時休業とする」という衝撃的なニュースが飛び込んできた。卒業式には…、修了式には…、離任式には…、最後の日には…、退職までの1か月を描いていたシナリオは、一気に崩れ去っていった。でも、前を向くしかない。「ピンチはチャンス」と自分自身に言い聞かせ、最も辛い思いをしている卒業生が笑顔で巣立っていく姿を思い浮かべながら、新たなシナリオを描き始めた。

「そうだ、卒業式では式辞の代わりに授業をしよう!」。卒業前に計画していたものの実施できなかった“志の授業”を行うチャンスである。ただ、教室で行う予定だった授業の最後は、自作の歌『夢の途中』をギターで弾き語りすることになっていたが、それを卒業式で、しかも体育館ですることには一瞬躊躇した。しかし、文部科学省の通知に、卒業式の工夫例として「教員の有志が楽器を演奏し、参列者のいない卒業式を盛り上げる」と書かれていたことに背中を押された。

志の授業は、我が教員生活最高の授業「夢を語る会」の回顧から始まった。TVドラマ『3年B組金八先生Ⅲ』の主題歌『声援』の歌詞「♪あなたが言葉を覚えたのは悲しみ語るためですか どうか何度も泣いてください うれし涙に出会うまでは」が心に響いたことを話すとともに、そのアンサーソングとして、「♪君が言葉を覚えたのは夢を語るためですよ」と伝えるために、自ら歌を作ったことを紹介した。そして、次のように語りかけた。「現在も、3年後も、10年後も、今と未来はつながっています。もしかしたら、今描いている夢や希望が途中で変わることがあるかもしれませんが、でも、笑顔と涙の意味を忘れず、志を持ち続けているかぎり、大丈夫です。夢の途中だからこそ、夢中になれるのです。」

フィナーレの『夢の途中』の弾き語りでは、最後の「♪顔晴れ(がんばれ)、顔晴れ、夢をつかむまで」の繰り返しを、全教職員も一緒に歌ってくれた。感動の歌声が体育館に響き渡った。

令和2年4月、第2の人生は、三豊市教育委員会学校教育課でスタートした。それと同時に、小中学校の臨時休業も再び始まった。その対策として、三豊市では県下に先駆けて、教員有志がオンラインでの授業配信を始めた。私も、今度は三豊市内の全ての子どもたちにエールを送りたいという新たな夢を持った。そこで、『ココロの授業～コロナに負けるな～』の授業を構想し、未来への応援歌として『夢の途中』(歌詞を一部変更)を発表することにした。夢の続きが動き始めた。

♪♪♪ 君を花にたとえたなら 今は小さな蕾です やがて大きな花になると 寒さに耐えて春を待つ  
そんな花の逞しさにも似た 一途な君の直向きさが好きだから  
眩しい陽射しを浴びる季節(とき)が来るまで 顔晴れ 顔晴れ 春が呼んでいる  
**君が言葉を覚えたのは 夢を語るためですよ** ときめく想いを伝えよう 瞳に映る未来(あす)を信じて  
止まない雨や明けない夜はないと 唇をかみしめ 拳を握りしめて  
暗闇に射し込む光を「希望」と名付けよう 顔晴れ 顔晴れ 春はきっと来る  
三豊平野で見上げた空は 果てしない夢を描くスクリーン  
笑顔と涙を繰り返し 君よ強くなれ 顔晴れ 顔晴れ 夢をつかむまで ♪♪♪

三豊市HPにアップすると、かつての教え子たちから「小1の娘がハマって、毎日歌ってます」「久しぶりに先生の授業を受けて元気が出ました」などの声が寄せられた。歌の力のすごさと、教員という仕事のやりがいを改めて確認できた。

ここ数年、研修会の講師を頼まれることがある。講演のタイトルは、いつも『人生、よろこばせごっこ』と決めている。これは、アンパンマンの生みの親であるやなせたかし氏の【人間が一番うれしいことは何だろうか?長い間、ぼくは考えてきた。そして結局、人が一番うれしいのは、人をよろこばせることだということがわかりました。実に単純なことです。人は、人をよろこばせることが一番うれしい】という言葉からいただいた。教員レースを振り返っても、子どもたちの笑顔を見られることが一番うれしかったし、子どもたちも私の期待に応えてくれた。まさに、よろこばせごっこである。

今年65歳を迎えるが、夢を見るのに年齢諦めはない。よろこばせごっこを続けながら、私の夢はまだまだ続く……。